

Shop & Service Guide ...32
いらっしゃいませ

iSTUDIO (アイスタジオ)

iSTUDIO (アイスタジオ) はバレエ、ダンス、音楽、演劇などの練習をはじめ、教室としても利用もできる貸しスタジオ。多摩川沿いにタマエスティ国際学生会館を運営する(株)アイデント(代表大西一郎さん)が「狛江の文化度を上げたい」との思いから平成25年にオープンさせた。

当初から質の高い設備をリーズナブルな料金で提供することを目標に、インターネットを使った予約など利用しやすいサービスを心がけているという。

3階建てのビルの1階と地下にあるスタジオは70㎡、33㎡、31㎡、18㎡の大小4室がある。いずれの部屋も防音設備、大鏡、プロ仕様の音響設備、調光

様々な芸術活動に向け設備充実 狛江の文化度向上めざして開設



スタジオとマネージャーの池田さん

☎3489-2433 東和泉3-6-4泉プラザ1F&BF 営業時間=原則午前8時~21時、年末年始休み



ライト、インターネット環境を備えている。また、3室には衝撃吸収ゴムと木を組んだ木組みにダンス床の最高峰とされるTMフロア(リノリウム材)を張って、膝、腰を痛めない配慮をしている。70㎡の部屋はト

イレ付きの20㎡の控室があり、楽屋として使えるため、音楽や演劇などの公演や発表会などができる。また、スクリーンとプロジェクターを備えているため、会議や鑑賞会などにも使用できる。無料で貸し出している床用のボードを使ってタップダンスやフラメンコの練習もできる(部屋の制限あり)。

現在利用されているのはバレエ、キッズダンス、フラダンス、フラメンコ、タップダンス、ベリーダンス、インド舞踊などのダンス系、ボーカル、アコースティックギター、エレキギター、フルート、オカリナ、金管楽器、チェロ、ハンドパン、歌謡ポップスなどの音楽系と幅広いジャンルに及んでいる。このほか、演技、空手、社交ダンス、コンピューターミュージックに加え、撮影控室、写真スタジオ、会議などにも使われている。利用者は狛江市民が多いという

音楽活動のほか、コマラジ(狛江FM)で音楽番組も持っているマネージャーの池田まり子さんをはじめ、ほとんどのスタッフは音楽やダンスの経験が豊かで、施設の管理運営のほか、教室やイベントの開催など幅広い相談にもものっている。初めて教室を開く人のために使用料を割り引くスタートアップサポートや、一般利用者向けに様々なキャンペーンなども行っている。

池田さんは「スタジオ開設の頃から関わっていますが、ここで練習してダンスや音楽、演劇などのコンクールやオーディションで良い結果が出たという喜びの声を聞いたり、学生時代に利用した人が親になり、親子でスタジオに来てくれる姿を見るととてもうれしいです」と話している。

KOMAEチャンスII 15組が夢の舞台で熱演

「KOMAEチャンスII」(狛江市、狛江市教育委員会など後援)が2月18日(日)にエコルマホールで催され、15にのぼる個人や団体が音楽やダンス、武道、読み聞かせ、ダブルダッチなど、バラエティーに富んだプログラムを披露した。

東京たまがわロータリークラブ(廣瀬由香

長)が「未来のエンターティナーを応援しよう」と、大きな発表の場を市民に提供することで、狛江の文化を盛り上げようと開いたもので、平成29年に次いで2回目。主催者は「多くの来場者があり、出演者にも喜ばれて良かった」と話していた。



エコルマの大ホールで熱のこもった合唱



二十歳を祝う会で演技を披露するボルグ

防ふれあい広場を開催する。ミニ防火衣着体験、初期消火訓練、ポンプ車展示などを行う。来場者には品物をプレゼントする(数量に限りあり)。また、5日(日)午前11時から狛江市役所で消防演習を実施する。

同署によると、市内では昨年1年間に前年より5件少ない12件の火災が発生、焼損床面積は10㎡で、前年より143㎡も減った。

出火原因は放火(疑い含む)4件、ガス機器が2件、たばこ2件、電気機器等1件。同署では放火対策として①家の周りを整理整頓し、燃えやすい物を放置しない②ゴミは所定の収集日に出す③外灯などで家の周りを明るくする④物置や車庫等に鍵をかける⑤自転車やオートバイ等のボディカバーに防炎品を使うなどを挙げている。

また、能登半島地震で家具の転倒や落下物の負傷者が多く発生したことから、家具の転倒・落下・移動防止などの対策を呼びかけている。

問い合わせ☎3480-0119狛江消防署。

35人が救命講習受ける 消防懇話会が初の開催

普通救命講習会が2月3日(日)に狛江市民総合体育館で催され、狛江消防懇話会(鈴木一光会長)の会員など35人が参加した。

昨年、関東大震災から100年を迎えたのを機に、同会が初めて実施したもの。救急車の現場への到着時間が延びる傾向にある中で、けが人や病人を救急隊に引き継ぐまでの応急手当の重要性が指摘されている。

会場では、数人ずつのグループに分かれ、狛江消防署員から心肺蘇生法、気道異物除去、AED(自動体外式除細動器)の使用法など



心肺蘇生法の講習

についてダミーの人形を使って実践的な手ほどきを受けた。参加者たちは、能登半島地震の発生から約1カ月しかたっていないこともあり、真剣な表情で指導を受けていた。

ダブルダッチの魅力を発信 狛江二中出身の大学生ら

狛江第二中学校出身で国際基督教大学3年の森風茜さんが所属するダブルダッチグループ「Bølge(ボルグ)」は1月8日(日)にエコルマホールで催された狛江市二十歳を祝う会のアトラクションで演技を披露、人気を呼んだ。同グループは昨年10月22日(日)に川崎市で開催されたダブルダッチ学生日本一を選ぶ「Double Dutch Delight Jpan2023」の大学生部門で初優勝した。12月にはニューヨークでの世界大会「National Double Dutch League Holiday Classic」(NDDL)に2年連続で出場、前年より1つ上の5位入賞という優秀な成績を取めた。

ボルグは東京大学ダブルダッチサークル「D-act」に所属、メンバーは森さんのほか、リーダーの越智孔聖さん、東方熙琉さん、前田星冴さん、野口賢太郎さんの東大生と、日本女子大学の井上葉月さんのいずれも大学生3年生で構成している。森さんは狛江二中時代にダブルダッチ部に所属していたが、高校時代はダンス部で活動、国際基督教大に入ってから中学時代の部活仲間がダブルダッチを再開したのに刺激され、他大学の学生も受け入れているD-actに入り、学生日本一を目指してボルグを結成した。

通常は駒場キャンパスで週2回程度練習しているが、大きな大会の前は狛江市民総合体育館やえきまえ広場などで連日猛練習を重ねたという。

メンバーたちは「今年は4年生になるため、大きな大会には出場できないが、大学のイベントなどには参加したい。また、ダブルダッチの魅力を発信し、普及する活動をそれぞれの出身地で行いたい」と話し、森さんは「二十歳を祝う

会でエコルマの舞台上でうれしかった。二中のダブルダッチ部がなくなったのは寂しいですが、かつての仲間と協力してもう一度盛んになるよう努力したい」と話している。

フードバンクへ食品156kg 社会福祉法人連絡会が寄贈

保育園や障がい福祉サービス施設など7つの社会福祉法人でつくる狛江市社会福祉法人連絡会(代表・富永浩正狛江保育園長)が1月25日(日)に特定非営利活動法人フードバンク(田中妙幸理事長)へインスタントやレトルト食品、缶詰、米、乾麺、菓子など約156kgを贈った。

1月9日(日)~23日(日)に各法人の利用者や関係者、職員などに呼びかけて集めたもの。同会では令和3年から毎年この時期に寄贈しており、今回で4回目。

田中理事長は「この時期は食品が集まりにくいので、すごくうれしいです」と喜んでた。



フードバンクに贈られた食品

7日まで春の火災予防運動 消防ふれあい広場を開催

1日(日)から7日(土)まで春の火災予防運動が行われる。

狛江消防署では3日(日)午前10時~午後3時に狛江消防署で消